

8月7日、熊本すすめる会が対県要請を実施、高校生10人を含む17人の要請団に県議会議員5人も同席しました。高校生は要請後の記者会見にも参加し、記者の問いかけに自分の言葉で答えていました。九州ブロックキャラバンは2日に福岡、8日に佐賀で対県要請をおこないました。

熊本私学助成をすすめる会ニュース

二〇二四年度 第一号

二〇二四年八月八日発行

すすめる会 県へ私学助成拡充を迫る！ 前向きな回答は得られず!!

熊本私学助成をすすめる会（代表 竹原一輝）は、八月七日熊本県防災センター三三四会議室において松村加奈子熊本県総務部総務私学局私学振興課長へ『私立高校生の学費負担の軽減と私学助成の拡充を求める要請書』を提出しました。当日は県議会の岩中伸司、鎌田聡、岩田智子、幸村香代子、星野愛斗の各議員と、すすめる会から教員四名、高校生十名、葛巻全国私教連書記長、九州ブロックから長崎一名、佐賀一名が参加しました。

二、非正規教員が教員全体の四〇パーセントを超えているのは把握している。これについては五月国へ要望している。また、県議会からも要望している。

この他の参加者からは、「国に要望をしても、地方にその分の予算を配分しているので県に言うてほしいと言われ、県に行けば国に要望しているという結果でたらい回しにされている。このままだとい学生徒が他県に流れる」、「この子たちが大人になったときに、熊本にいてよかったと思ってほしい。そのためには、私学助成に地域の未来がかかっている」、「私学の先生たちは面見がいいですよねと中学校の先生からよく言われる」などと発言をされました。

まず、参加者より簡単な自己紹介後、竹原代表より課長へ要請書を手渡ししました。（要請事項については後述）その後、竹原代表より本要請の趣旨説明をし、私学振興課よりそれについての回答及び参加者や県議員より質疑応答がありました。

三、学費補助制度については、生活保護世帯への入学金補助を行っているが、年収三五〇万円未満までの拡充は財政的に難しい。

最後に、参加された県議からも発言していただきました。その中でも鎌田県議からは「県はT S M Cの進出、熊本地震や令和二年豪雨災害、新型コロナウイルス感染症対策という今では正当な理由で説明しているが、それが以前から、私は二十四年も先生方の似たような要望について聞いてきている。それらについては県は答えようとしていない。財政は厳しいのは分かっている。無駄な部分を削ってでも、どれだけ負担できるのかを検討して、〇か100ではなく、少しでも可能性を追求してほしい」という私たちの要望を後押しするような発言をいただきました。

※要請事項
一、熊本県単独予算による学費補助制度を拡充してください
二、私学の経営を安定させ専任教員を増員するため、国に向けて経常費助成の拡充を要請してください
三、年収三五〇万円未満世帯までに入学金の補助を上げてください

竹原代表からは「国に要望されていることについては分かるが、県として新たな取り組みはないのか。毎年、お願いをしているが、前向きな答えがもらえていない。何か、少しの変化でもいいのか」と、毎年同じ回答を繰り返す県に対して、少しでも進展した答えを求めました。

また、葛巻書記長からは「自治体間格差が広がっている。国に要望しているのは分かるが、自分の県でできることは何なのか考えてほしい」と言われ、続けて「どの県でも財政がないことは言われるが、それでも、多子世帯への補助拡充をさしたり、限られた範囲での県単独予算をつけたりと、少しでも前向きな取り組みをされている。熊本県でもお願いできないか」と、県に対し強くお願いされましたが、県からは「限られた予算の中でしかやれないので、この場では答えかねる。また『子どもまんなか熊本』においては、私学だけでなく、県全体の子どもたちを支援していく」という回答に終始しました。

私学振興課からこれらの回答として主な内容を述べると、
一、県の財政が厳しい中、入学金補助や学び直し（就学支援金受給月数を超えて卒業となる場合）を補助している。引き続き、国に拡充を要望していく。
二、私立高校の生徒10人も同席し、クラーク記念国際高等学校の田代妃陽さんは「私学に通う子が安心して熊本で学び、地域に貢献したい」と思えるような制度にしてほしい」と訴えた。

また、葛巻書記長からは「自治体間格差が広がっている。国に要望しているのは分かるが、自分の県でできることは何なのか考えてほしい」と言われ、続けて「どの県でも財政がないことは言われるが、それでも、多子世帯への補助拡充をさしたり、限られた範囲での県単独予算をつけたりと、少しでも前向きな取り組みをされている。熊本県でもお願いできないか」と、県に対し強くお願いされましたが、県からは「限られた予算の中でしかやれないので、この場では答えかねる。また『子どもまんなか熊本』においては、私学だけでなく、県全体の子どもたちを支援していく」という回答に終始しました。

要請書を受け取った私学振興課の松村加奈子課長は「県の財政は厳しく独自予算の検討は簡単ではない。国に制度の充実に要望していく」と答えた。（堀江利雅）

熊本市内の私立高の教員や保護者らでつくる「熊本私学助成をすすめる会」は7日、私学への助成拡充の要請書を県に提出した。主な要請は、国の就学支援金制度への県予算による独自の乗せ、同様の制度がないのは全国で熊本など

9県だけだという。県内私学教員の非正規率が5・9%に上ることなどを挙げ、運営費助成も求めた。竹原一輝代表（熊本中央高教諭）は「物価高や新型コロナウイルス禍で、経済的理由による学費滞納や中退も増えている」と強調し

た。私立高の生徒10人も同席し、クラーク記念国際高等学校の田代妃陽さんは「私学に通う子が安心して熊本で学び、地域に貢献したい」と思えるような制度にしてほしい」と訴えた。（堀江利雅）

県内総合 ニュースセレクト

私学助成拡充 県に要請

生徒ら「安心して学べる制度に」



私立高への助成拡充の要請書を受取る熊本市立松村加奈子課長（左）と手渡す「熊本私学助成をすすめる会」の竹原一輝代表（右）と、県庁

熊本市内の私立高の教員や保護者らでつくる「熊本私学助成をすすめる会」は7日、私学への助成拡充の要請書を県に提出した。主な要請は、国の就学支援金制度への県予算による独自の乗せ、同様の制度がないのは全国で熊本など

要請書を受け取った私学振興課の松村加奈子課長は「県の財政は厳しく独自予算の検討は簡単ではない。国に制度の充実に要望していく」と答えた。（堀江利雅）

↑
熊本日日新聞
8/8付
朝刊
総合2面
掲載記事

今年はずり万筆の署名を集めましょう!

8月24日（土）
署名スタート集会（午後一時半） 熊本国際
交流会館4階第一会議室
第1回街頭署名（午後三時半） サンロード
新市街